

異形棒鋼製品 環境ラベル「SuMPO EPD」を取得
～製品単位の環境負荷の見える化と低減を推進し、建設業界の低炭素化に貢献～

北越メタル株式会社（本社：新潟県長岡市、代表取締役社長：加納愛仁、以下「当社」）は、当社が製造する異形棒鋼製品について、一般社団法人サステナブル経営推進機構（SuMPO）のSuMPO環境ラベルプログラムに基づく第三者検証を受け、「SuMPO EPD(環境製品宣言)」*1を取得したことをお知らせします。

なお、本EPDはSuMPO環境ラベルプログラムのウェブサイト*2にて公開されています。

SuMPO EPDは、国際規格 ISO 14025に準拠した環境製品宣言（EPD）の一つであり、ライフサイクルアセスメント（LCA）手法を用いて、製品ライフサイクル全体における環境負荷情報を定量的かつ客観的に開示する制度です。本EPDの取得により、建設業界で導入が進む建築物LCA*3への活用が可能となり、設計・調達段階における環境配慮型建材の選定を支援します。



异形棒鋼(U-CON)

1. 背景

建設業界では、2028年度の法制度施行を目指す建築物LCAの導入や、LEED・BREEAM・CASBEE*4といったグリーンビルディング認証制度の普及を背景に、建材由来の環境負荷（エンボディドカーボン）*5の開示・低減への関心が急速に高まっています。

加えて、サプライチェーン全体で温室効果ガス（GHG）排出量の開示・削減を求める調達要件も増加しており、建材業界においては、製品単位のカーボンフットプリント（CFP）*6を含む環境負荷情報の透明性確保が重要なテーマとなっています。

2. 本取り組みの概要

このたび取得したSuMPO EPDにより、当社の異形棒鋼製品について、原材料調達から製造まで（A1～A3段階）^{*7}を対象としたライフサイクルアセスメント（LCA）結果が、第三者検証を経た形で公開されました。

なお、本EPDは、SuMPOが2024年に改定した新GPI（General Program Instructions）^{*8}に基づく算定ルールを適用しており、SD295、SD345、SD390、SD490の4製品区分ごとに取得しています。

これにより、鋼種ごとの特性を反映した、より精緻なLCA算定結果の提示が可能となりました。新GPI基準に基づく異形棒鋼製品のSuMPO EPD取得は、北陸地方において当社が初となります。

3. 今後の展開

当社は、SuMPO EPDによって明らかになったLCA算定結果を活用し、さらなる環境負荷低減に取り組んでまいります。

今後、環境配慮型建材の採用を求める自治体案件や民間開発プロジェクトの拡大を見据え、通常品と比較してCO₂排出量を低減した鋼材の開発・提供を進めていく予定です。

当社は今後も、環境情報の透明性向上を通じ、建設業界の脱炭素化に貢献してまいります。

*1 SuMPO EPD：国際規格 ISO 14025に準拠した「タイプⅢ環境宣言」で、日本発で唯一のEPD(Environmental Product Declaration:製品環境宣言)。

(2024年4月に「エコリーフ」から「SuMPO EPD」に名称変更)

*2 SuMPO EPDを取得した異形棒鋼製品 4件

異形棒鋼(SD295): <https://ecoleaf-label.jp/epd/2938>

異形棒鋼(SD345): <https://ecoleaf-label.jp/epd/2939>

異形棒鋼(SD390): <https://ecoleaf-label.jp/epd/2940>

異形棒鋼(SD490): <https://ecoleaf-label.jp/epd/2941>

*3 建築物LCA：建築物の資材調達、建設、使用、解体に至るまでのライフサイクル全体における環境負荷を定量的に評価する手法。

*4 LEED・BREEAM・CASBEE：建築物の環境性能を評価する国際的および国内のグリーンビルディング認証制度。

*5 エンボデイドカーボン：建材の製造、輸送、施工など、建築物の建設段階までに発生するCO₂排出量。

*6 CFP（カーボンフットプリント）：製品のライフサイクルにおける温室効果ガスの総量をCO₂換算で算定した指標。

*7 (A1～A3)：原材料の採取・加工(A1)、輸送(A2)、製品の製造(A3)までの工程を対象とした、製品出荷前段階のライフサイクル範囲を指します。

*8 GPI：SuMPO EPDにおけるLCA算定・情報開示の統一ルールを定めた基本指針で、算定範囲や前提条件、表示方法などを規定している。

2025年10月から新GPIの適用が進められている。